

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04082

研究課題名(和文) 東海地方における外国人労働者の「逆転現象」～ブラジル人からフィリピン人へ

研究課題名(英文) The Replacement Phenomenon of the Ethnic Composition of Migrant Workers in the Tokai Region, Japan: Decreasing Brazilians and Increasing Filipinos

研究代表者

高畑 幸 (Takahata, Sachi)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：50382007

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では主に以下の3点を明らかにすることができた。(1)フィリピン日系人の日本への移住と労働のプロセス。両国の仲介機関や在日の親族による呼び寄せにより来日し派遣会社を通じて就労すること。(2)連鎖移動の結果、彼(女)らが親族単位で近居・集住し、親族間の相互扶助で日本での労働、生活、子育てを行っていること。(3)ブラジルとフィリピンでは日系社会の歴史や経済的基盤が違い、戦後の反日感情により経済基盤が脆弱なフィリピン出身の日系人は、日本においても民族学校がなく賃金交渉力が弱いこと。これらを論文や学会報告の形で公表し、これらの課題を解決すべく自治体に対して日本語学習機会の増加等につき提言を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまで研究蓄積が少なかった、フィリピン日系人の来日のプロセスと労働・定住の課題を明らかにしたことにある。また、東海地方の製造業における派遣労働市場においては、出身国を問わず日系人が重要な派遣労働者集団となり、彼(女)ら向けに日本語能力が低くても働ける労働市場ができており、雇用の安定性や子どもの教育等の生活面にブラジル人よりもフィリピン人はさらに弱者性を抱えていることを明らかにした。

本研究の社会的意義は、学術論文や学会報告、マスメディアの取材協力を通じてフィリピン日系人労働者の生活課題を迅速に幅広く広く知らせ、課題解決への端緒を作ったことにある。

研究成果の概要(英文)：In this project, the researcher was able to clarify the following three points. (1) The process of migration and labor of Filipino Nikkei in Japan. They find employment and arrive in Japan through the assistance of sending agency in the Philippines and/or Japan-based family members. In Japan, they are dispatched by manpower agencies and work at factories. (2) As a result of chain migration, in the areas of residential concentration they work and raise children by mutual assistance between relatives. (3) Due to the difference in terms of history and economic basis between Brazil and Filipino Nikkei communities, the latter are more vulnerable in Japan also, due to their economic instability back home which stems from the anti-Japanese sentiment after WWII. The researcher was able to publish several papers and academic reports, along with conference presentations and proposing some measures to local governments such as more opportunities for learning Japanese literacy.

研究分野：社会学

キーワード：フィリピン人 日系人 東海地方 外国人労働者

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

1990年の入管法改正に伴う南米日系人の家族移住と工業都市での集住に関して、主に都市社会学、教育社会学、日本語教育等の分野で研究蓄積がなされてきた(広田康、渡戸一郎、小内透、池上重弘、都築くるみ、山本かほり、松宮朝、関口知子、児島明、土屋千尋など)。公営住宅での集住が多く、地域社会への溶け込みや子どもの日本語習得が課題とされてきた。2008年末のリーマンショック後は、ブラジル人の失職と帰国が相次ぎ、日本に残った日系人には定住支援が行われてきた。南米出身の日系人の定住初期および中期の課題については解明がなされてきたと言える。

一方、在日フィリピン人については、1980年代後半から興行労働を経て結婚移民となった女性の散在居住が特徴とされてきた(高畑幸、永田貴聖など)。しかし、2005年からの興行労働者の受け入れ縮小と共にフィリピン人の結婚移民は減少し、2006年には日比国際結婚が約12000件だったのが近年は年間約3000件にすぎず、「女性労働者の結婚移民化」というフィリピン人の定住モデルを再考すべき時期となっている。

2000年代以降に増加しているのがフィリピン日系人の来日である。彼(女)らの日本での生活に関する先行研究は、大野俊・飯島真里子による数量調査(2008年実施、239人回答)のみである。そこでは、フィリピン日系人は戦後の混乱で身分証明書類が焼失したため、1990年の入管法改正後ようやく身元探しが始まり、日本への出稼ぎが本格化するのには2000年代に入ってからであること、3世が派遣会社を通じて日本へ出稼ぎをし、フィリピンでは2世が4世を育てていること、日本の地域社会ではフィリピン日系人はまだ目立たない存在だと書かれている。

### 2. 研究の目的

本研究では、先行研究が少ない「日本在住のフィリピン日系人」を対象とし、南米出身の日系人の定住のありかたと比較しつつ、フィリピン日系人が日本において直面する課題を明らかにし、その解決への方策を導くことを目的とする。調査地の東海地方は1990年代初めより工業都市においてブラジル人が家族で移住し、自動車産業等の製造業で派遣労働を、2000年代半ばから、いくつかの地方都市においてブラジル人が減少してフィリピン人が増加する「逆転現象」が現れている。本研究では、これら「逆転現象」が現れた岐阜県可児市、愛知県蒲郡市、静岡県焼津市、静岡県浜松市浜北区を事例として、以下の3点を明らかにすることを目的とした。東海地方でフィリピン人が増加している背景。フィリピン日系人の家族移住の実態。フィリピン人が多い都市での外国人住民施策の課題。

### 3. 研究の方法

先行研究、関連資料から、ブラジル人の集住都市における行政課題を明らかにした。

日本におけるフィリピン人の集住、就労、教育の課題、およびフィリピン日系人の歴史的経緯、来住、就労に関して先行研究および支援団体(NPO法人フィリピン日系人リーガルサポートセンター、フィリピン日系人企業協力協会)へのヒアリングから明らかにした。

統計資料から、東海地方においてブラジル人とフィリピン人の「逆転現象」が見られる都市について、「逆転」の時期やその背景(産業、経済、社会的要因)について分析した。

調査対象地域の各都市での行政、教育現場、支援団体(日本語教育、学習支援、労働組合等)、同胞団体へのヒアリングを行った。

フィリピン日系人の出身地における(ミンダナオ島のダバオ市およびその近郊)を訪問し、日系人社会の歴史を再確認するとともに、日本への出稼ぎによる出身村での経済的・社会的インパクト、出稼ぎに行った親を持つ子どもたちの養育と教育、出稼ぎ者による出身村との往来、戦前の日系人社会に関する資料館建設等の調査を行った。

### 4. 研究成果

本研究では、上記の研究目的に対して以下の3点を明らかにすることができた。

東海地方でフィリピン人が増加した背景は、ブラジル日系人の減少を、技能実習生よりも柔軟に使える労働力である日系人労働者によって補う必要があり、フィリピンの仲介業者および日本の派遣会社の連携でフィリピン日系人がブラジル日系人の代替労働力として雇われたことにある。しかし、ブラジルとフィリピンでは日系社会の歴史や経済的基盤が違い、反日感情があり日系人差別により経済基盤が弱いフィリピン出身の日系人は、日本においても民族学校がなく、賃金交渉力が弱い等の弱者性がある。

フィリピン日系人の家族移住の実態は、移動の端緒は日本側の人材派遣会社による渡航費貸付を利用した来日だが、その後は在日の親族が母国にいる迅速へ渡航費を貸付け、また在留資格取得のさいの身元保証人になることで、連鎖移動を可能にした。連鎖移動の結果、彼(女)らは、1990年代のブラジル日系人と同様、派遣会社が用意した住居や民間アパート等で集住しており、親族間の相互扶助で日本での労働、生活、子育てを行っている。

フィリピン人が多い都市での外国人住民施策の課題は、フィリピンに日系人がいることが認識されていない、あるいは、「フィリピン人」のカテゴリに(1990年代から多かった)結婚移民と(2000年代以降に増加した)日系人がひとくくりで扱われていることにある。

以上について、論文や学会報告の形で公表した。また、新聞の取材やテレビ番組の制作にも協

かし、日本におけるフィリピン日系人の定住と労働の課題について広く市民に知らせることができた（上記期間に新聞記事3本、テレビ番組1本）。そして、本研究のこれらの課題を解決すべく、主に静岡県内において、多文化共生懇話会等に出席した上で南米系以外の外国人の定住と労働および教育の課題について提言を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高畑幸	4. 巻 36
2. 論文標題 「東海地方における移住労働者のエスニシティ構成の『逆転現象』 静岡県焼津市の水産加工労働者の事例」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本都市社会学会年報』	6. 最初と最後の頁 147-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Takahata	4. 巻 2
2. 論文標題 "Issues for the Future Study of Filipino Immigrants in Japan: A Review of Literature since the 2000's"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Theory and Dynamics	6. 最初と最後の頁 122-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 高畑幸
2. 発表標題 「静岡県焼津市の水産加工業で働くフィリピン日系人 雇用と移住のプロセスを中心に」
3. 学会等名 移民政策学会2018年冬季大会 シンポジウム「さかなと外国人」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachi Takahata
2. 発表標題 "Gendered Migration of Filipinos to Japan and its Consequences, 1987-2018"
3. 学会等名 The 5th International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachi Takahata
2. 発表標題 "Wives, Children and Nikkei's: Filipinos Coming to Japan based on the Attributions"
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018, invited panel "Current Situation of Social Inclusion for Immigrants" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachi Takahata
2. 発表標題 "Japanese Policy on Children with a Migrant Background: An Overview"
3. 学会等名 International Conference: Children with a Migrant Background of Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高畑幸
2. 発表標題 「EPA介護福祉士の職場定着要因の分析－フィリピン人介護労働者の追跡調査から」
3. 学会等名 日本移民学会・第28回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高畑幸
2. 発表標題 「東海地方における外国人労働者の『逆転現象』～静岡県焼津市の事例」
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高畑幸
2. 発表標題 「在日フィリピン人の二世代 (1) 「日系」フィリピン人の多様化を中心に」
3. 学会等名 第89回日本社会学会大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 『地方発 外国人住民との地域づくり 多文化共生の現場から』（担当：82-96頁「静岡県焼津市におけるブラジル人とフィリピン人 教育的課題を中心に」）	

1. 著者名 駒井洋監修、津崎克彦編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 『産業構造の変化と外国人労働者』（担当：66-82頁「介護の専門職化と外国人労働者 日系人から結婚移民、介護福祉士まで」）	

1. 著者名 Johanna ZULUETA (ed.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Manila: De La Salle University Press	5. 総ページ数 288
3. 書名 Thinking Beyond the State: Migration, Integration, Citizenship in Japan and the Philippines (担当：255-280頁 "Migrant Women in a Big City Entertainment Area: What Have Filipino Women Changed in Sakae-Higashi Area, Naka Ward, Nagoya City, 2002-2016?")	

1. 著者名 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 移民政策のフロンティア	

1. 著者名 伊藤守、小泉秀樹、三本松政之、似田貝香門、橋本和孝、長谷部弘、日高昭夫、吉原直樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1168
3. 書名 コミュニティ事典	

1. 著者名 大野拓司・鈴木伸隆・日下渉編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 408
3. 書名 『フィリピンを知るための64章』（担当：344-348頁「戦後の人流 出稼ぎ先から観光地になったニッポン」）	

1. 著者名 駒井洋監修、佐々木てる編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 『マルチ・エスニック・ジャパニーズ 系日本人の変革力』（担当：154-167頁「フィリピン系日本人 10万人の不可視のマイノリティ」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----